

平成18年度食品健康影響評価等に対する理解状況及び促進に
関する調査(遺伝子組換え食品等の安全性審査への理解編)

アンケート調査研究報告書

平成18年12月

株式会社NHKエンタープライズ

目 次

I. 総 括

- 1. 調査概要 3
- 2. 調査結果の要約 6
 - (1) 遺伝子組換え食品についての成年・未成年の知識の浸透度・理解度の実態 6
 - (2) 明らかになった課題 ～ソフト制作によせて～ 8

II. アンケート集計結果のまとめ

- 遺伝子組換え食品の認知状況 11
 - Q1. 以下の内容はそれぞれ正しいと思いますか？ 11
 - Q1-A. 日本では遺伝子組換え農作物をいっさい作っていない。 12
 - Q1-B. 人の遺伝子は DNA だが、トマトの遺伝子は DNA でない。 14
 - Q1-C. 遺伝子組換え農作物は、遺伝子に放射線を当てて遺伝子の並びを変えている。 16
 - Q1-D. 遺伝子組換え農作物を利用した食品には、必ずその旨の表示がある。 18
 - Q1-E. 遺伝子組換え食品の安全性は、動物を使った実験で確かめている。 20
 - Q2. 遺伝子組換え食品にどんなイメージを持っていますか。(いくつでも) 22
 - Q3. 遺伝子組換え食品は安全だと思いますか？ 24
 - Q4. 遺伝子組換え食品の安全性について、国が審査し、安全性が確認されたものだけが流通・販売されていることを知っていますか？ 26
- 遺伝子組換え食品に対する行動 28
 - Q5. 食品を購入する時や食べる時、遺伝子組換え食品かどうか、気にしますか？ 28
 - Q6. 食品の表示について、主にどんな点に注目しますか？(3 つまで) 30
- 遺伝子組換え食品に関する情報収集 32
 - Q7. 遺伝子組換え食品についてあなたがいちばん知りたい情報は何か？ 32
 - Q8. 現在、遺伝子組換え食品の情報は何かから得ていますか？(いくつでも) 34
 - Q9. 遺伝子組換えの大豆を原料としてつくった醤油や油は、製品から組換えた遺伝子を検出できないため、現在、「遺伝子組換えの大豆を使用」という表示は必要ありません。あなたは表示を行うべきだと思いますか？ 36
 - Q10. 現在研究されている遺伝子組換え技術の中で、どの研究に期待しますか？ 38

I . 総括

1. 調査概要

(1) 調査テーマ ≫

遺伝子組換え食品についてのアンケート

(2) 調査目的 ≫

遺伝子組換え食品に係る認知、行動、リスクコミュニケーションに対する項目をアンケート項目として設定し、知識の浸透度や理解度を把握する。

今回は、広報ビデオの制作にむけて、生活者の実態を明らかにすべく、成年 400 名およびターゲットとなる未成年(高 3、中 3、小 6)600 名、計 1000 名を対象にアンケート調査を実施した。

(3) 主な調査項目 ≫

- ◇ 遺伝子組換え食品に関する知識の理解度
 - ◇ 遺伝子組換え食品に対するイメージや意識
 - ◇ 遺伝子組換え食品に対する行動
 - ◇ 情報収集とリスクコミュニケーションについて
- … 参照 【別紙1】「遺伝子組換え食品についてのアンケート」の構成

(4) 調査対象 ≫

成年 400 名(20 代・30 代・40 代・50 代の男女 各 50 名)

未成年 600 名(高 3・中 3・小 6 の男女 各 100 名)

… 参照 【別紙2】サンプルの特徴

(5) 調査方法 ≫

Web アンケート調査

(6) 調査期間 ≫

平成 18 年 9～11 月(Web アンケート実施 9 月 14～20 日の 7 日間)

【別紙1】「遺伝子組換え食品についてのアンケート」の構成

■ 遺伝子組換え食品の認知状況 → 知識の理解度を探る

Q1. 以下の内容は、それぞれ正しいと思いますか？

Q1-A. 日本では遺伝子組換え農作物をいっさい作っていない。

Q1-B. 人の遺伝子はDNAだが、トマトの遺伝子はDNAでない。

Q1-C. 遺伝子組換え農作物は、遺伝子に放射線を当てて遺伝子の並びを変えている。

Q1-D. 遺伝子組換え農作物を利用した食品には、必ずその旨の表示がある。

Q1-E. 遺伝子組換え食品の安全性は、動物を使った実験で確かめている。

Q2. 遺伝子組換え食品にどんなイメージを持っていますか。(いくつでも)

Q3. 遺伝子組換え食品は安全だと思いますか？

Q4. 遺伝子組換え食品の安全性について、国が審査し、安全性が確認されたものだけが流通・販売されていることを知っていますか？

■ 遺伝子組換え食品に対する行動 → 日常の注目度合いを探る

Q5. 食品を購入する時や食べる時、遺伝子組換え食品かどうか、気にしますか？

Q6. 食品の表示について、主にどんな点に注目しますか？(3つまで)

■ 遺伝子組換え食品に関する情報収集 → 情報入手と要望を探る

Q7. 遺伝子組換え食品についてあなたがいちばん知りたい情報は何か？

Q8. 現在、遺伝子組換え食品の情報は何かから得ていますか？(いくつでも)

Q9. 遺伝子組換えの大豆を原料としてつくった醤油や油は、製品から組換えた遺伝子を検出できないため、現在、「遺伝子組換えの大豆を使用」という表示は必要ありません。あなたは表示を行うべきだと思いますか？

Q10. 現在研究されている遺伝子組換え技術の中で、どの研究に期待しますか？

[基本属性]

年代・性別(F1)／同居している家族構成(F2)／居住地域(F3)

[未成年のサンプル抽出について]

未成年については、対象の親を通じて、事前スクリーニング調査を実施し、サンプル抽出を行った。

【別紙2】 サンプルの特徴

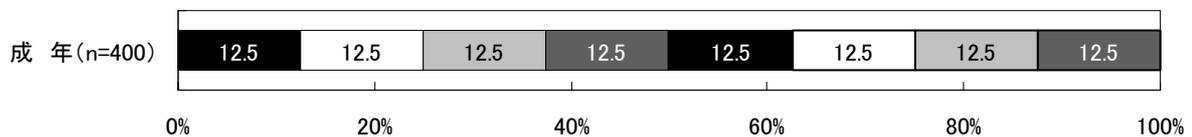
以下は、調査対象となった成年(n=400)、未成年(n=600)の対象サンプルの基本属性である。

成年については、年代・性別でサンプル数を均等とした。

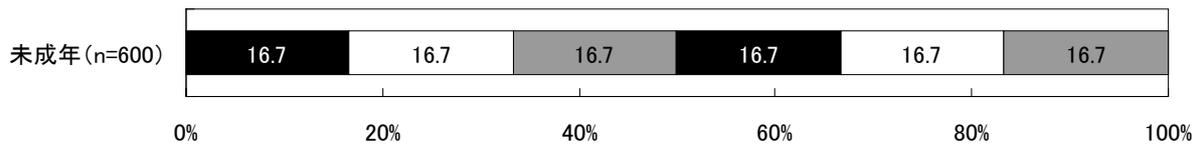
未成年については高3・中3・小6の性別でサンプルを均等とした。

【年代・性別】

■ 20代男性 □ 30代男性 □ 40代男性 ■ 50代男性 ■ 20代女性 □ 30代女性 □ 40代女性 ■ 50代女性

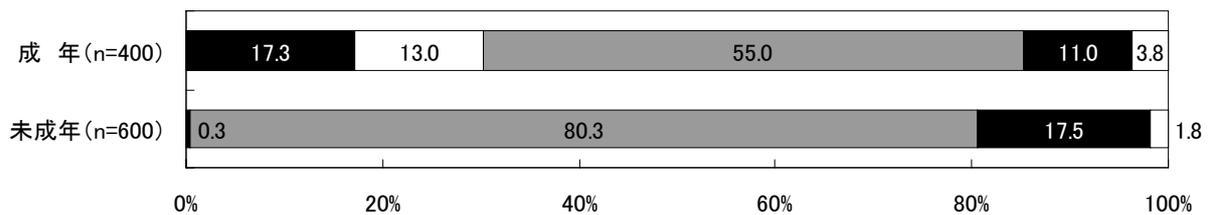


■ 高3男子 □ 中3男子 □ 小6男子 ■ 高3女子 □ 中3女子 ■ 小6女子



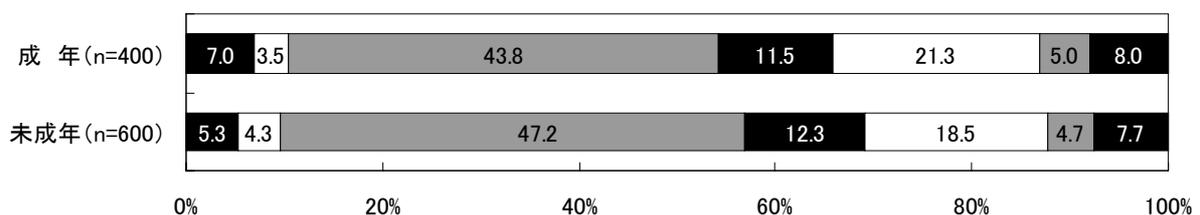
【同居している家族構成】

■ 単身世帯 □ 夫婦二人のみ ■ 親と子の世帯(2世代) ■ 親と子と孫の世帯(3世代) □ その他



【居住地域】

■ 北海道 □ 東北 ■ 関東・甲信越 ■ 東海・北陸 □ 近畿 ■ 中国・四国 ■ 九州・沖縄



2. 調査結果の要約

(1) 遺伝子組換え食品についての成年・未成年の浸透度・理解度の実態

今回の調査で、一般生活者(成年・未成年)の知識の浸透度・理解度の実態の、特徴的な点は以下の通りである。

遺伝子組換え食品について、大半の回答者は日本でも作られていることは知っていても、未だ「わからない」ことも多く十分に理解されているとはいえない

- ◇ アンケート 5 項目の正解率は以下の通り。遺伝子組換え技術、流通、安全審査の各方面にわたって認知・理解が浸透していない一端をうかがわせる。
- ◇ 日本では遺伝子組換え農作物をいっさい作っていない→×
成年 71.8%、未成年 64.0%
- ◇ 人の遺伝子は DNA だが、トマトの遺伝子は DNA ではない→×
成年 61.3%、未成年 45.3%
「わからない」→成年 31.8%、未成年 47.2%
- ◇ 遺伝子組換え農作物は、遺伝子に放射線を当てて遺伝子の並びを変えている→×
成年 22.8%、未成年 16.3%
「わからない」→成年 53.0%、未成年 60.5%
- ◇ 遺伝子組換え農作物を利用した食品には、必ずその旨の表示がある→×
成年 29.0%、未成年 19.7%
- ◇ 遺伝子組換え食品の安全性は、動物を使った実験で確かめている→×
成年 21.0%、未成年 13.5%
「わからない」→成年 43.8%、未成年 48.3%

遺伝子組換え食品＝「安全性に不安を感じる食品」のイメージが強い

- ◇ 「安全性に不安を感じる食品」成年 71.0%、未成年 74.5%
- ◇ 「栽培するのに便利な農作物」成年 53.3%、未成年 43.7%
- ◇ とりわけ女性や未成年において「安全性に不安を感じる食品」「栽培時に環境への影響が不安」といったマイナスイメージの項目への回答比率が高い。

遺伝子組換え食品に対して、約半数は「安全だと思わない」

- ◇ 「安全だと思わない」成年 46.3%、未成年 48.3%
- ◇ 遺伝子組換え食品を安全と認識しているのは約 3 割にとどまる。
- ◇ 成年女性では「安全だと思わない」+「わからない」が 75.0%を占め、男性 67.5%よりも遺伝子組換え食品への不安や懸念が強い傾向を表している。
- ◇ 未成年では、年齢が低いほど「安全だと思わない」+「わからない」の比率が高い。

8割は「遺伝子組換え食品の安全性について、国が審査し、安全性が確認されたものだけが流通・販売されている」ことを知らない

- ◇ 遺伝子組換え食品の安全性について、国が審査し、安全性が確認されたものだけが流通・販売されていることを認知しているのは、成年 28.0%、未成年 22.0%。
- ◇ 未成年では、高3男子が 34.0%と全体で最も高い。その他は2割程度にとどまるが、小中女子の認知率は男子に比べ高い。

遺伝子組換え食品かどうかについて、成年は意識し、未成年はあまり気にかけない

- ◇ 食品を購入する時や食べる時、遺伝子組換え食品かどうかを気にするとの回答は、成年 59.8%、未成年 37.5%。「まったく気にしない」成年 7.3%に対し、未成年では 26.0%。
- ◇ 成年女性「常に気にしている」+「時々気にしている」63.5%
- ◇ 前述のとおり、未成年の約半数が遺伝子組換え食品は「安全だと思わない」としているにもかかわらず、未成年の6~7割が食品を購入するときや食べる時、遺伝子組換え食品かどうかを「気にしない」としている。このように、問われれば意識を向けることはあるが、日常における問題意識は希薄である。

「賞味期限や消費期限」に最も注目。「遺伝子組換えかどうか」への注目度は低い

- ◇ 成年では、「賞味期限や消費期限」69.8%、「原材料、食品添加物」51.3%、「国産/輸入など、産地や加工地」50.0%
- ◇ 未成年は、「賞味期限や消費期限」76.7%、「価格」55.7%
- ◇ 「遺伝子組換えかどうか」については、成年 14.8%、未成年 7.2%
- ◇ 「原材料、食品添加物」「国産/輸入など、産地や加工地」「カロリーや栄養成分」等の項目で、女性の回答比率が高い。「カロリーや栄養成分」には、小中高女子も注目。

7割強が、遺伝子組換え食品について「健康への影響」を知りたい

- ◇ 最も知りたい情報は、「健康への影響」成年 73.3%、未成年 76.5%。
- ◇ 次に、「子孫への影響」成年 17.8%、未成年 8.0%
- ◇ 未成年の「健康への影響」への関心は、中3男子、高3女子で8割を超えるなど、成年男女を上回る。しかし、一方で、食品を購入する時や食べる時、遺伝子組換え食品かどうかを「気にしない」としており、ここにも、問題意識の未成熟な状態がうかがえる。

情報入手ルートは「テレビや新聞・雑誌」、そして「インターネット」 未成年は「学校の先生」「母親等の家族」などからも

- ◇ 遺伝子組換え食品の情報入手は、「テレビや新聞・雑誌」成年 84.0%、未成年 73.7%。
- ◇ 成年女性では「テレビや新聞・雑誌」が 91.5%と圧倒的。2位の「インターネット」26.8%を大きく引き離している。男性では「インターネット」が 36.0%。
- ◇ 未成年では、「インターネット」20.7%。知識の認知度が高かった高3男子では 35.0%
- ◇ 未成年では「学校の先生」22.0%、その他の中に挙げられた「母親・家族・親」からも情報入手。
- ◇ 成年、未成年を問わず、「専門家」や「役所などの行政機関」は極めて少ない。

遺伝子組換えの大豆の使用について「表示は必要」成年 77.5%、未成年 68.5%

- ◇ 遺伝子組換えの大豆を原料としてつくった醤油や油は、製品から組換えた遺伝子を検出できないため、現在、「遺伝子組換えの大豆を使用」という表示は必要がないとされているが、回答者の大半は「表示は必要」としている。
- ◇ 未成年も大半は表示の必要性を認めているが、成年に比べ「どちらでもよい」、「わからない」の回答比率が高い。

期待する遺伝子組換え技術研究の内容については、回答が分散 未成年の4分の1は「イメージできないのでわからない」

- ◇ 「燃料用のアルコールの原料になる植物」24.8%、「土中のダイオキシンを吸収し分解する植物」23.3%と、資源や環境の問題へ貢献する研究への期待は大きい。
- ◇ 未成年では、「食べることで花粉症を予防するイネ」24.8%、「イメージできないのでわからない」24.7%が、ほぼ同率で上位を競い合っているのが特徴。
- ◇ わが国の食糧事情を反映しているのか、「食糧増産に貢献する作物」への期待度は、成年で11.8%、未成年で11.2%というように、決して高いとはいえない。

(2) 明らかになった課題 ～ソフト制作によせて～

今回の調査で、遺伝子組換え食品についての基礎的知識が、いまだに浸透していない事実が明らかになった。遺伝子組換え食品は、国のきびしい安全審査を義務づけられ、安全と確認されたものだけが流通・販売されている事実も、およそ4人に1人しか知らない。こうした低い理解・認知度を背景に、成年、未成年を問わず、遺伝子組換え食品は「安全性に不安を感じる食品」のマイナスイメージを持たれ、「健康への影響」が強く意識されることがわかる。一口に言えば、何がリスクなのかかわからないことが不安を呼び、不安を増幅する食品というプロファイルである。

このプロファイルを踏まえると、今後の課題は明らかである。不安を生み出すもととなっている遺伝子組換え技術についての基礎的知識の不足を補いながら、食品安全委員会が行っている厳格な安全性審査に目を開かせることである。そのポイントとなるのは、以下の2点となる。

○挿入遺伝子およびそれが作り出すたんぱく質は、人間にとって危険はないのか

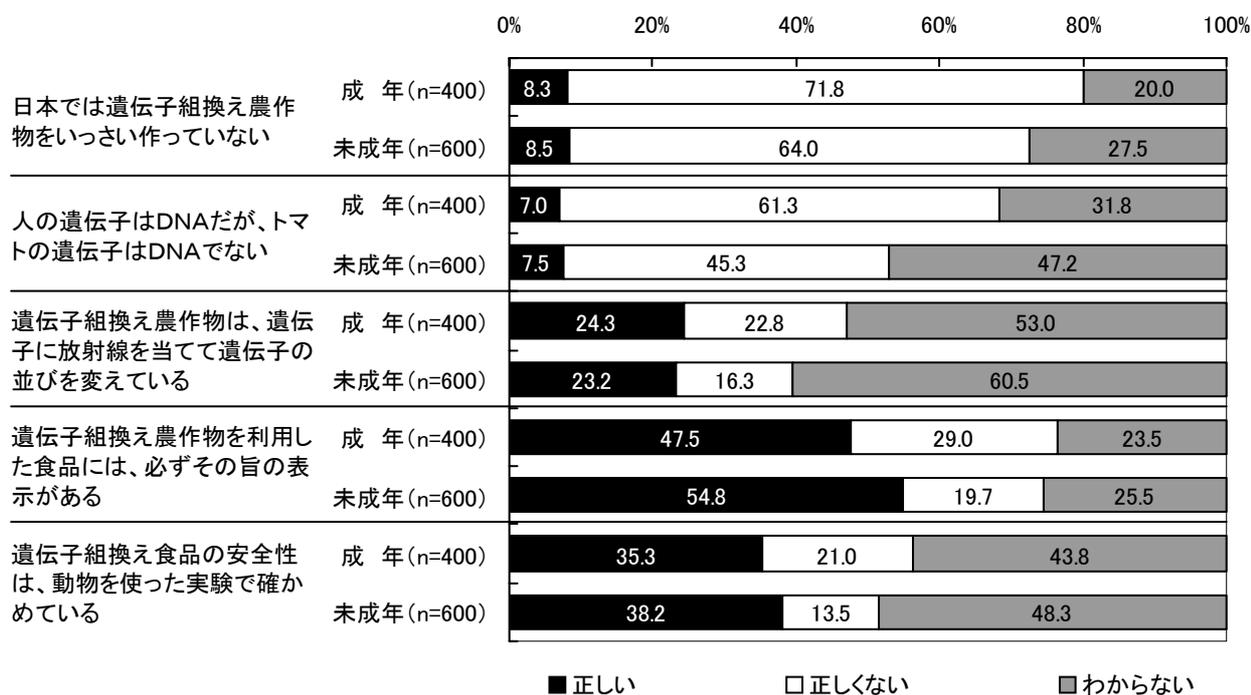
○何か健康危害をもたらすものを派生的につくり出してはいないか

様々なアプローチ(今回の制作ソフトを含む)が、人々の不安に応じて、十分に説得的であれば、遺伝子組換え食品は、これほど科学的に調べ尽くされた食品は他にない、というイメージに反転することが期待されよう。

遺伝子組換え食品についての基礎的知識を、問題意識が未成熟な状態の未成年の時代から浸透させるにあたっては、その情報入手経路の特徴から、学校教師や母親(父親)を惹きつけ、併せて理解促進を図る内容作りにも努力することが求められる。媒体においては、テレビ・新聞等のマスコミ以外に、未成年においてもインターネットの活用がますます加速することを視野にいれておくことが重要といえよう。

Ⅱ. アンケート集計結果のまとめ

Q1. 遺伝子組換え食品について、以下の内容は、それぞれ正しいと思いますか？



遺伝子組換え食品の認知状況を、5つの項目を提示し、それぞれ「正しい」「正しくない」「わからない」のいずれかを選択してもらった。成年と未成年の回答結果を図で比較すると、項目ごとには認知の傾向はほぼ同様といえるが、未成年においては、いずれの項目についても「わからない」との回答が多い。

提示した5項目については、いずれも「正しくない」が正解である。

「日本では遺伝子組換え農作物をいっさい作っていない」を「正しくない」と認識できたのは、成年 71.8%、未成年 64.0%。5項目のなかでは比較的よく認知されていたといえる。

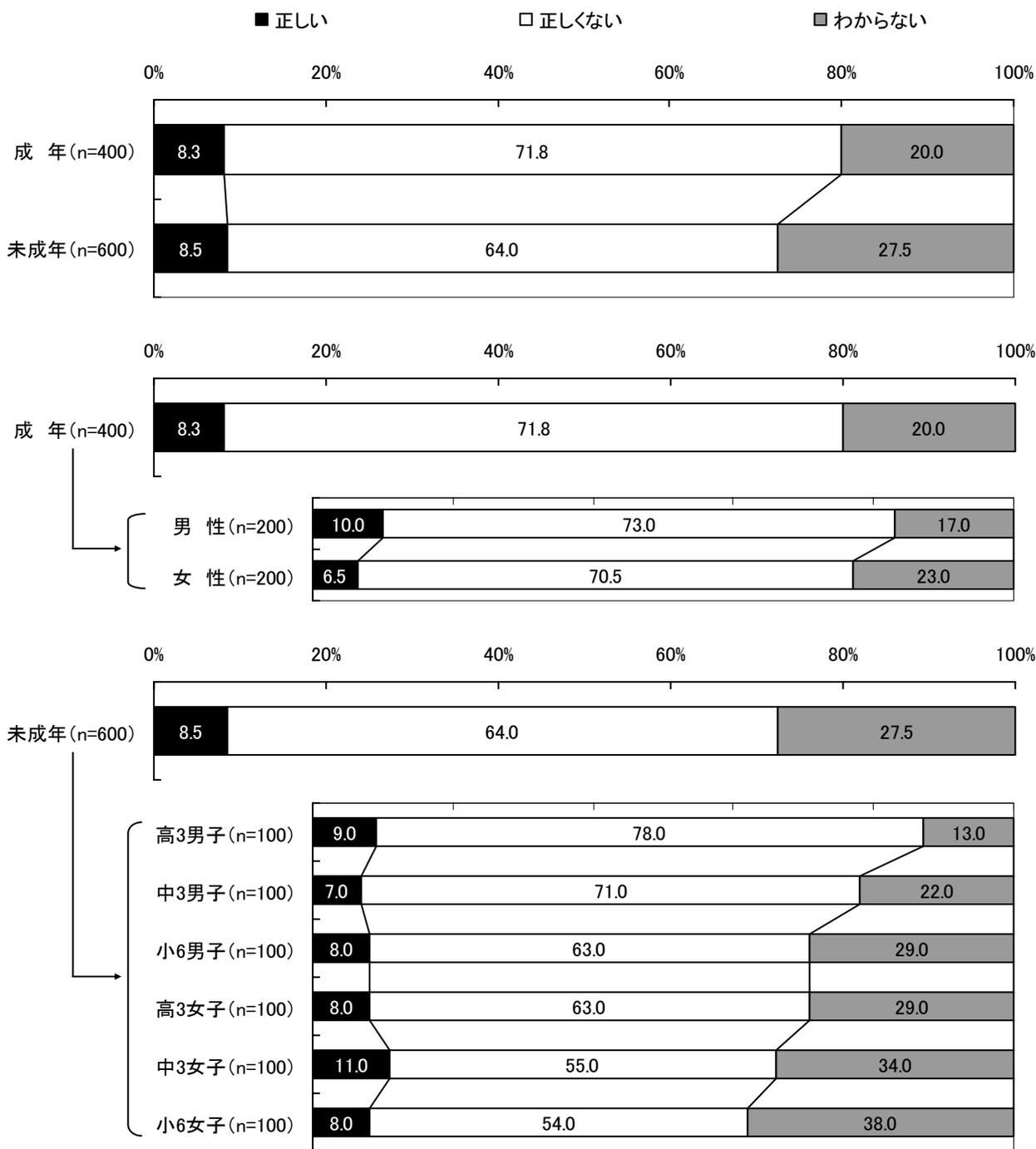
「人の遺伝子はDNAだが、トマトの遺伝子はDNAではない」を「正しくない」と認識できたのは成年 61.3%、未成年 45.3%。

「遺伝子組換え農作物は、遺伝子に放射線を当てて遺伝子の並びを変えている」を「正しくない」と認識できたのは、成年 22.8%、未成年 16.3%。この項目は「わからない」との回答比率が高い。

「遺伝子組換え農作物を利用した食品には、かならずその旨の表示がある」を「正しくない」と認識できたのは、成年 29.0%、未成年 19.7%。成年では半数弱、未成年では半数強が「正しい」と回答している。

「遺伝子組換え食品の安全性は、動物を使った実験で確かめている」を「正しくない」と認識できたのは、成年 21.0%、未成年 13.5%。5項目の中では最も正解率が低く認知がされていない。

Q1-A. 日本では遺伝子組換え農作物をいっさい作っていない。



「日本では遺伝子組換え農作物をいっさい作っていない」を「正しくない」と認識できたのは、成年 71.8%、未成年 64.0%。

成年の男女別では、女性より男性の正解率がわずかに高くなっている。

未成年でも女子より男子の正解率が高く、特に高3男子では 78.0%と、成年男性の正解率をも上回っている。年齢が低いほど「わからない」との回答が多くなっている。

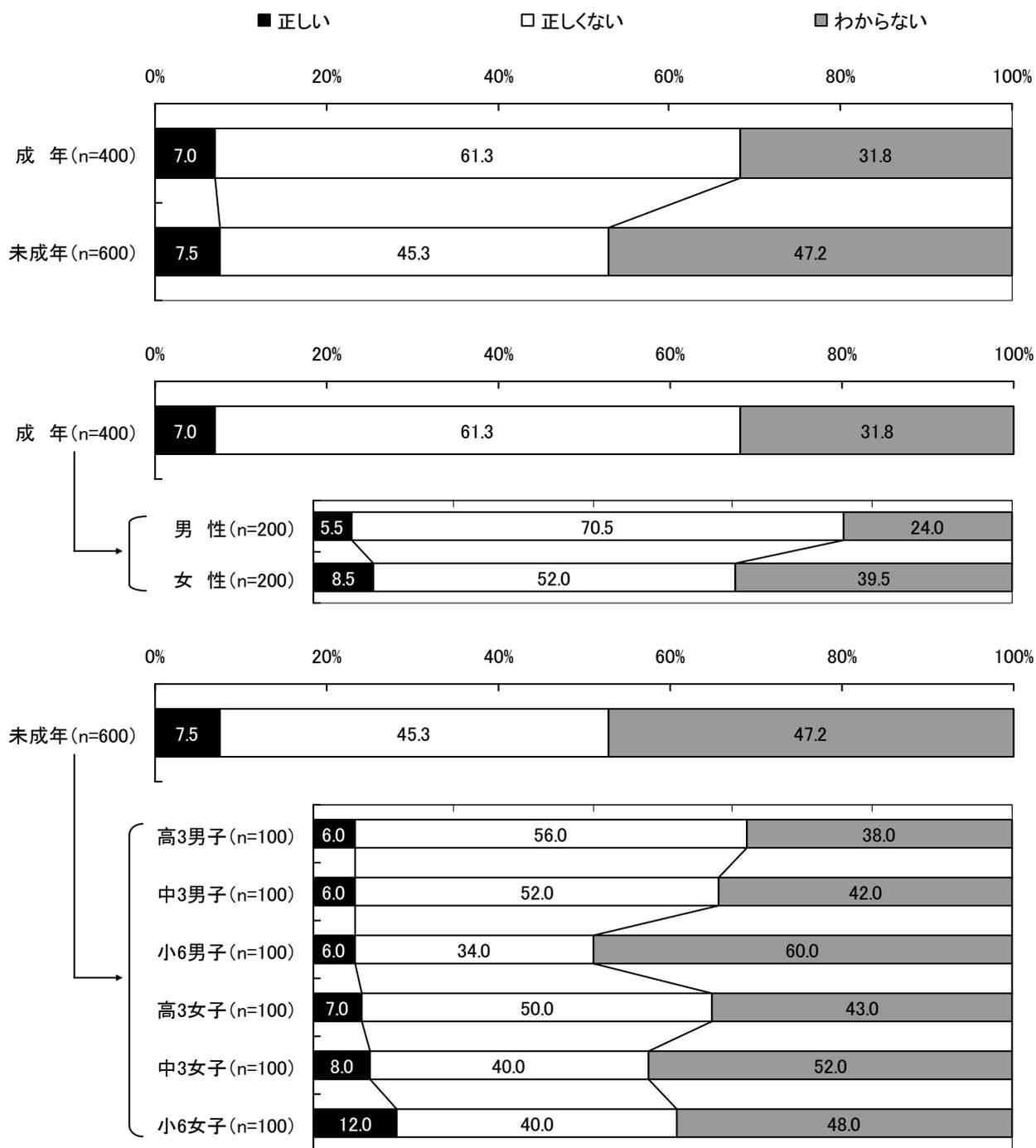
【日本では遺伝子組換え農作物をいっさい作っていない】

	正しい	正しくない	わからない
成年 (n=400)	8.3	71.8	20.0
未成年 (n=600)	8.5	64.0	27.5

	正しい	正しくない	わからない
成年 (n=400)	8.3	71.8	20.0
男性 (n=200)	10.0	73.0	17.0
女性 (n=200)	6.5	70.5	23.0

	正しい	正しくない	わからない
未成年 (n=600)	8.5	64.0	27.5
高3男子 (n=100)	9.0	78.0	13.0
中3男子 (n=100)	7.0	71.0	22.0
小6男子 (n=100)	8.0	63.0	29.0
高3女子 (n=100)	8.0	63.0	29.0
中3女子 (n=100)	11.0	55.0	34.0
小6女子 (n=100)	8.0	54.0	38.0

Q1-B. 人の遺伝子はDNAだが、トマトの遺伝子はDNAでない。



「人の遺伝子はDNAだが、トマトの遺伝子はDNAではない」を「正しくない」と認識できたのは成年 61.3%、未成年 45.3%。

成年の男女別では、男性の正解率が 70.5%だったのに対し、女性は 52.0%にとどまった。未成年では、高3男子が最も正解率は高く、次いで中3男子、高3女子となっている。

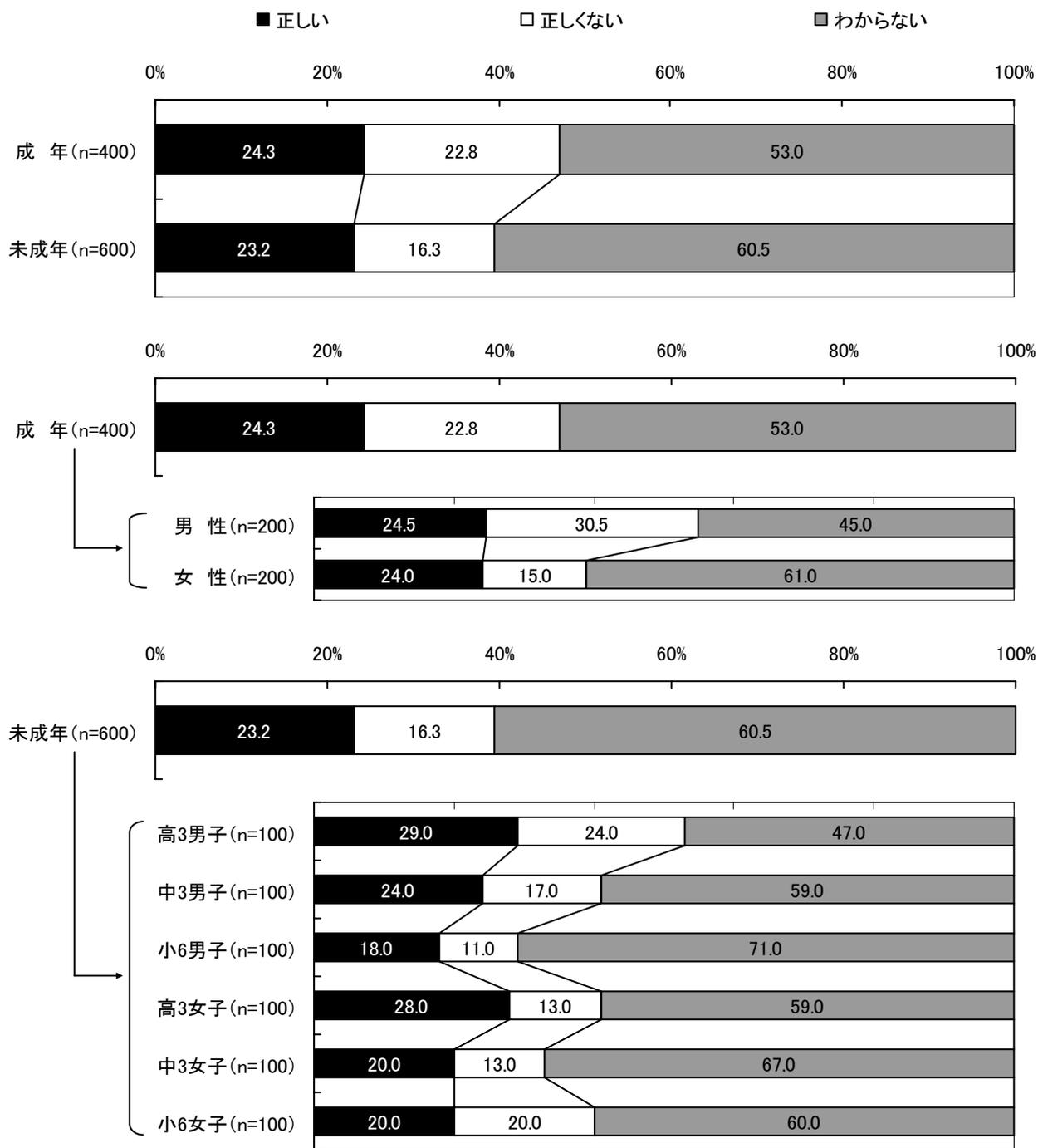
【人の遺伝子はDNAだが、トマトの遺伝子はDNAでない】

	正しい	正しくない	わからない
成年 (n=400)	7.0	61.3	31.8
未成年 (n=600)	7.5	45.3	47.2

	正しい	正しくない	わからない
成年 (n=400)	7.0	61.3	31.8
男性 (n=200)	5.5	70.5	24.0
女性 (n=200)	8.5	52.0	39.5

	正しい	正しくない	わからない
未成年 (n=600)	7.5	45.3	47.2
高3男子 (n=100)	6.0	56.0	38.0
中3男子 (n=100)	6.0	52.0	42.0
小6男子 (n=100)	6.0	34.0	60.0
高3女子 (n=100)	7.0	50.0	43.0
中3女子 (n=100)	8.0	40.0	52.0
小6女子 (n=100)	12.0	40.0	48.0

Q1-C. 遺伝子組換え農作物は、遺伝子に放射線を当てて遺伝子の並びを変えている。



「遺伝子組換え農作物は、遺伝子に放射線を当てて遺伝子の並びを変えている」を「正しくない」と認識できたのは、成年 22.8%、未成年 16.3%。この項目は「わからない」との回答が 5 項目中最も多かった。

成年の男女別では、男性の正解率が高く 30.5%、女性は 15.0%となっている。「わからない」の比率は男性 45.0%、女性では 61.0%にも達した。

未成年では、高3男子の正解率が 24.0%で 6つの学年のなかでは最も正解率が高かったが、他の学年においては、「わからない」が約 6割~7割であった。

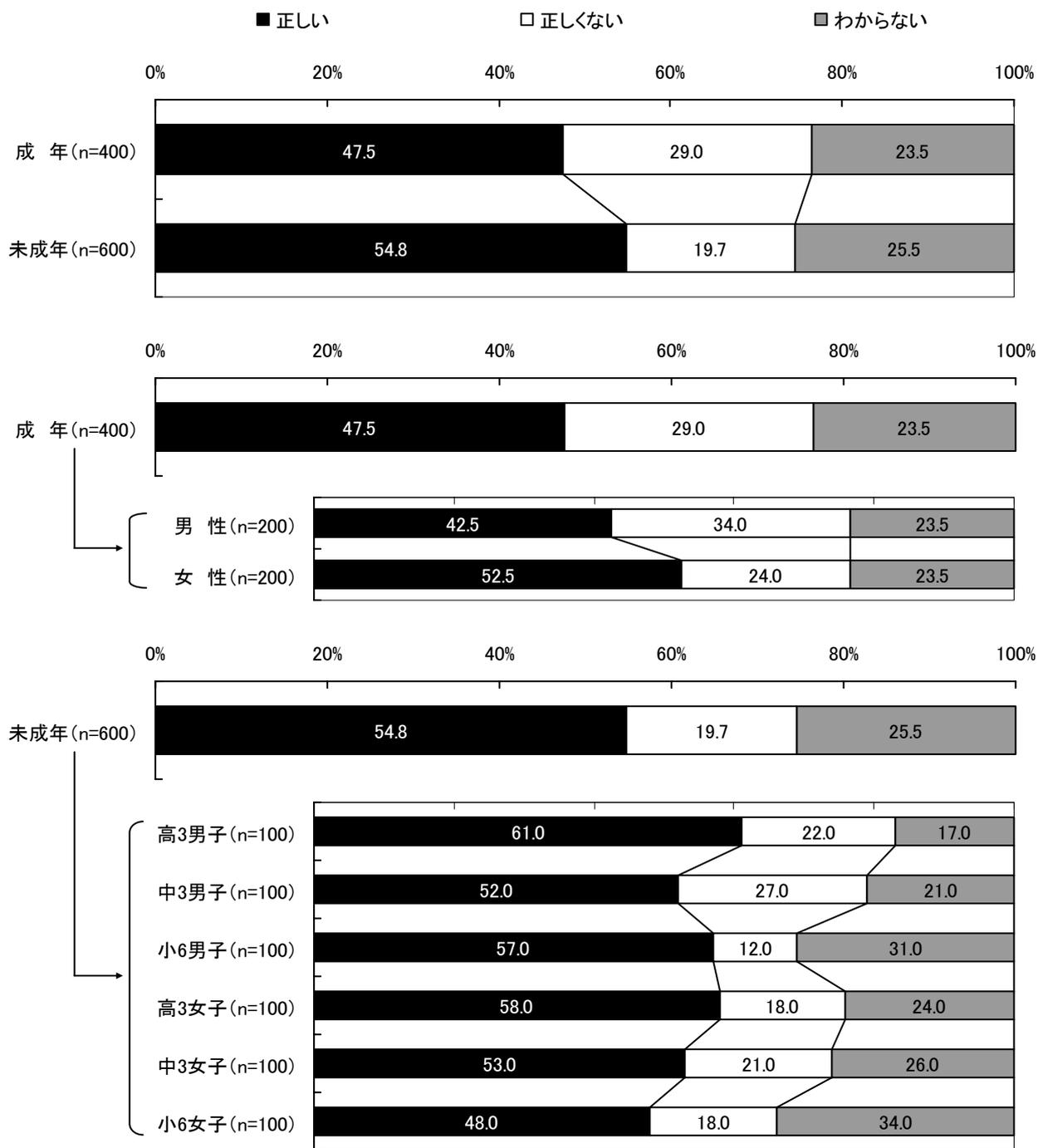
【遺伝子組換え農作物は、遺伝子に放射線を当てて遺伝子の並びを変えている】

	正しい	正しくない	わからない
成年 (n=400)	24.3	22.8	53.0
未成年 (n=600)	23.2	16.3	60.5

	正しい	正しくない	わからない
成年 (n=400)	24.3	22.8	53.0
男性 (n=200)	24.5	30.5	45.0
女性 (n=200)	24.0	15.0	61.0

	正しい	正しくない	わからない
未成年 (n=600)	7.5	45.3	47.2
高3男子 (n=100)	29.0	24.0	47.0
中3男子 (n=100)	24.0	17.0	59.0
小6男子 (n=100)	18.0	11.0	71.0
高3女子 (n=100)	28.0	13.0	59.0
中3女子 (n=100)	20.0	13.0	67.0
小6女子 (n=100)	20.0	20.0	60.0

Q1-D. 遺伝子組換え農作物を利用した食品には、必ずその旨の表示がある。



「遺伝子組換え農作物を利用した食品には、かならずその旨の表示がある」を「正しくない」と認識できたのは、成年 29.0%、未成年 19.7%。

成年の男女別では、男性の正解率は 34.0%で女性の 24.0%を 10 ポイント上回っている。

未成年では、いずれの項目についても正解率の高い高 3 男子において、「正しい」と誤解している比率が最も高くなっている。

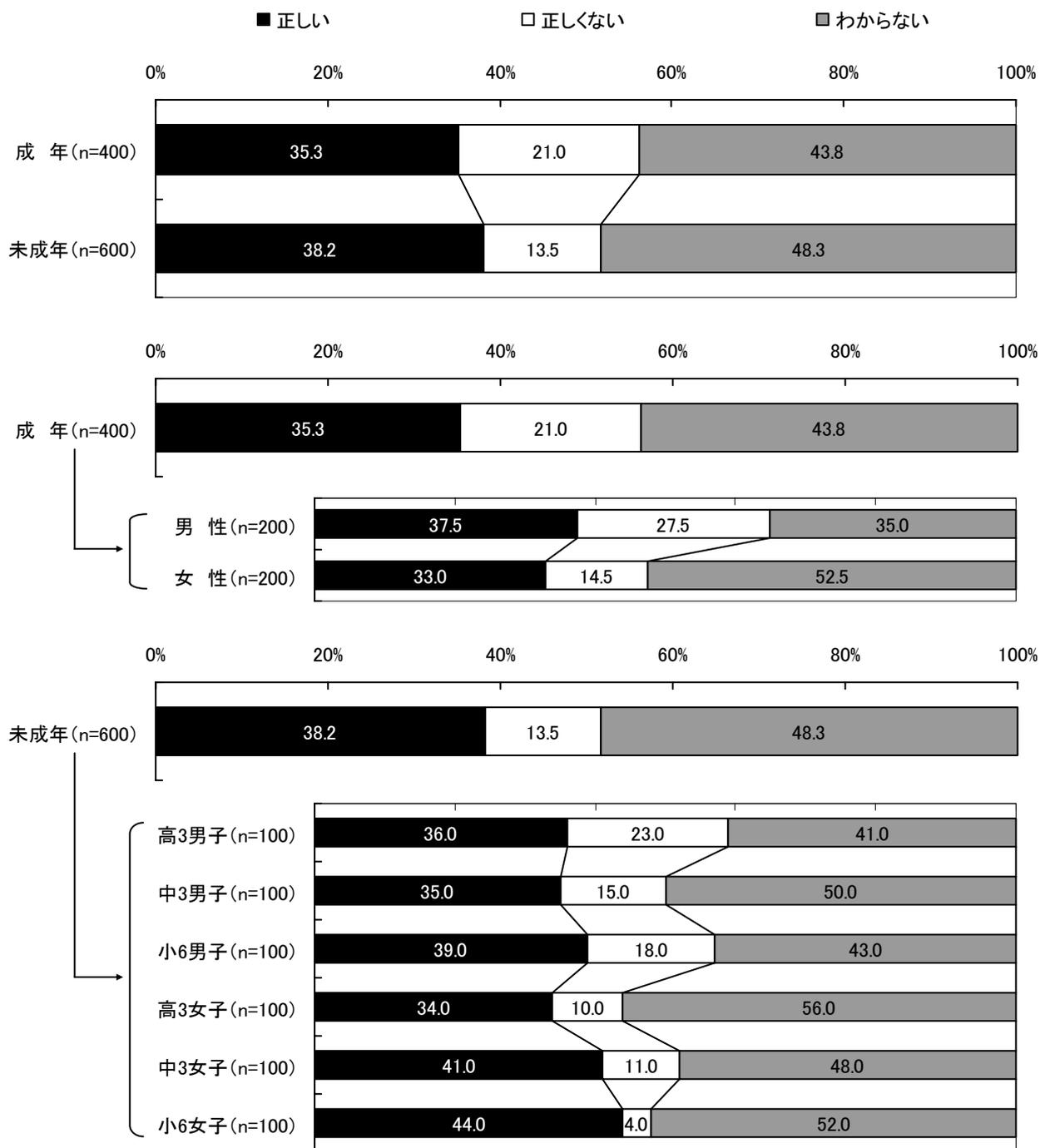
【遺伝子組換え農作物を利用した食品には、必ずその旨の表示がある】

	正しい	正しくない	わからない
成年 (n=400)	47.5	29.0	23.5
未成年 (n=600)	54.8	19.7	25.5

	正しい	正しくない	わからない
成年 (n=400)	47.5	29.0	23.5
男性 (n=200)	42.5	34.0	23.5
女性 (n=200)	52.5	24.0	23.5

	正しい	正しくない	わからない
未成年 (n=600)	54.8	19.7	25.5
高3男子 (n=100)	61.0	22.0	17.0
中3男子 (n=100)	52.0	27.0	21.0
小6男子 (n=100)	57.0	12.0	31.0
高3女子 (n=100)	58.0	18.0	24.0
中3女子 (n=100)	53.0	21.0	26.0
小6女子 (n=100)	48.0	18.0	34.0

Q1-E. 遺伝子組換え食品の安全性は、動物を使った実験で確かめている。



「遺伝子組換え食品の安全性は、動物を使った実験で確かめている」を「正しくない」と認識できたのは、成年 21.0%、未成年 13.5%。5項目の中では最も正解率が低く認知がされていない。成年の男女別では、男性の正解率が高く 27.5%。女性においては「わからない」が半数以上を占めている。

未成年では、他の項目と同様、高3男子が最も正解率が高いが 23.0%にとどまっている。

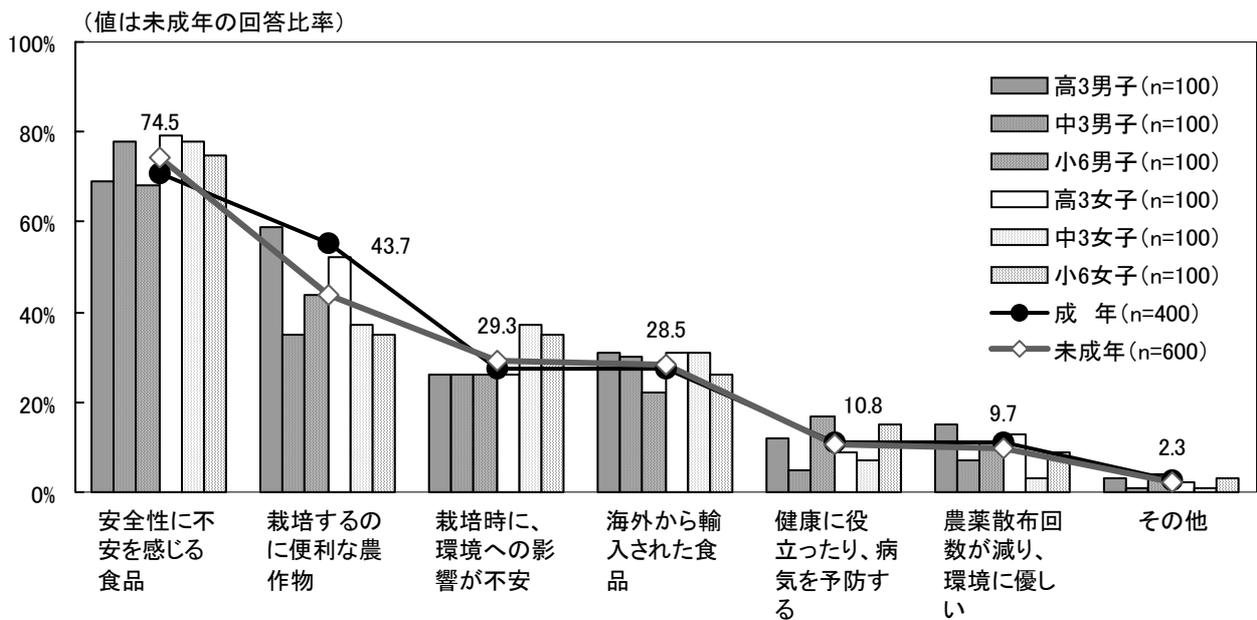
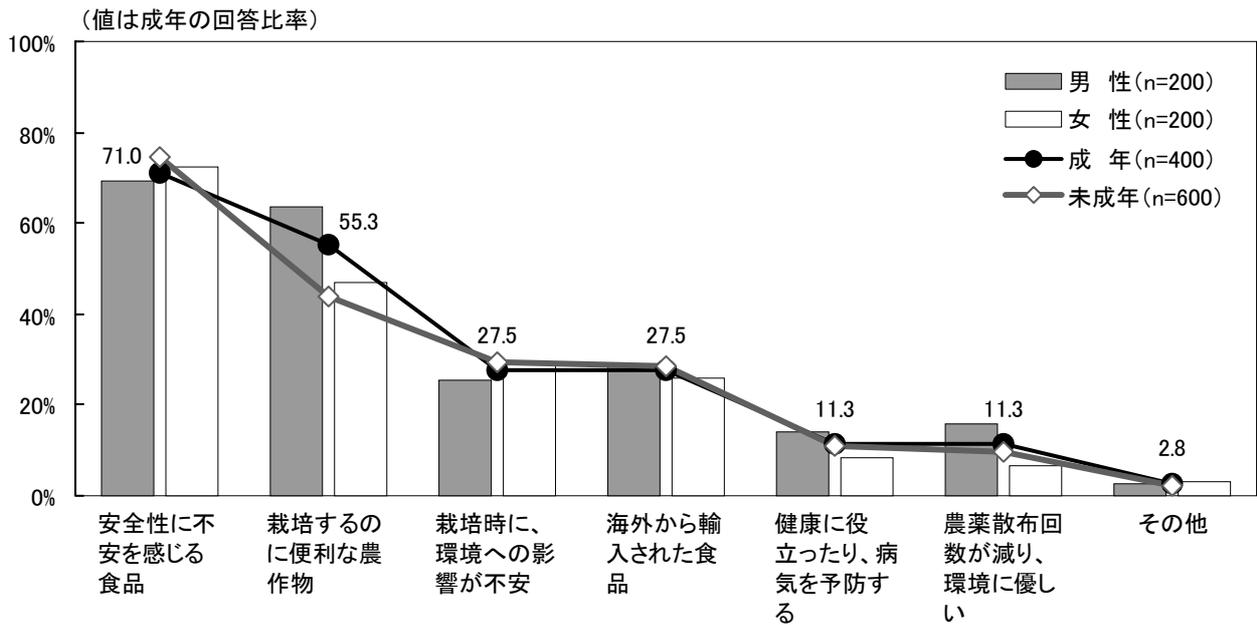
【遺伝子組換え食品の安全性は、動物を使った実験で確かめている】

	正しい	正しくない	わからない
成年 (n=400)	35.3	21.0	43.8
未成年 (n=600)	38.2	13.5	48.3

	正しい	正しくない	わからない
成年 (n=400)	35.3	21.0	43.8
男性 (n=200)	37.5	27.5	35.0
女性 (n=200)	33.0	14.5	52.5

	正しい	正しくない	わからない
未成年 (n=600)	38.2	13.5	48.3
高3男子 (n=100)	36.0	23.0	41.0
中3男子 (n=100)	35.0	15.0	50.0
小6男子 (n=100)	39.0	18.0	43.0
高3女子 (n=100)	34.0	10.0	56.0
中3女子 (n=100)	41.0	11.0	48.0
小6女子 (n=100)	44.0	4.0	52.0

Q2. 遺伝子組換え食品にどんなイメージを持っていますか。



遺伝子組換え食品に対するイメージの中で、最上位に挙げられるのは、「安全性に不安を感じる食品」で成年 71.0%、未成年 74.5%と高い比率を占めている。こうしたマイナスイメージの項目が最上位に挙げられたものの、2位には「栽培するのに便利な農作物」成年 53.3%、未成年 43.7%といったプラスイメージのものが挙げられた。

成年の男女別では、「安全性に不安を感じる食品」「栽培時に環境への影響が不安」といったマイナスイメージのものは女性において回答比率が高くなっていることがわかる。

未成年においては、マイナスイメージの項目の回答比率が成年よりも高く、「栽培するのに便利な農作物」「健康に役立ったり、病気を予防する」「農薬散布回数が減り、環境に優しい」といったプラスイメージの項目は成年のほうが高くなっている。

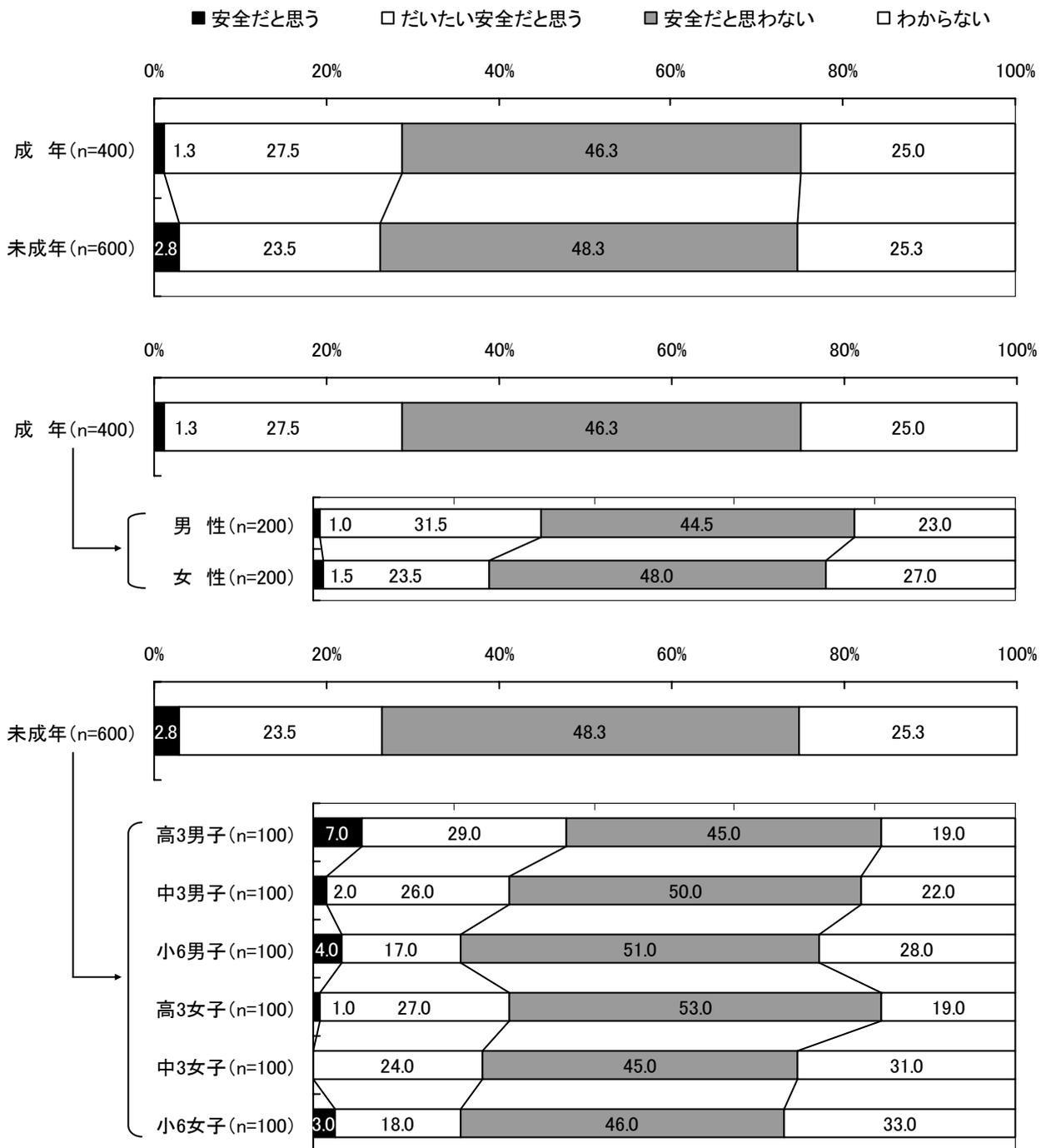
【遺伝子組換え食品にどんなイメージを持っていますか】

	安全性に不安を感じる食品	栽培するのに便利な農作物	栽培時に、環境への影響が不安	海外から輸入された食品	健康に役立ったり、病気を予防する	農薬散布回数が減り、環境に優しい	その他
成 年 (n=400)	71.0	55.3	27.5	27.5	11.3	11.3	2.8
未成年 (n=600)	74.5	43.7	29.3	28.5	10.8	9.7	2.3

	安全性に不安を感じる食品	栽培するのに便利な農作物	栽培時に、環境への影響が不安	海外から輸入された食品	健康に役立ったり、病気を予防する	農薬散布回数が減り、環境に優しい	その他
成 年 (n=400)	71.0	55.3	27.5	27.5	11.3	11.3	2.8
男 性 (n=200)	69.5	63.5	25.5	29.0	14.0	16.0	2.5
女 性 (n=200)	72.5	47.0	29.5	26.0	8.5	6.5	3.0

	安全性に不安を感じる食品	栽培するのに便利な農作物	栽培時に、環境への影響が不安	海外から輸入された食品	健康に役立ったり、病気を予防する	農薬散布回数が減り、環境に優しい	その他
未成年 (n=600)	74.5	43.7	29.3	28.5	10.8	9.7	2.3
高3男子 (n=100)	69.0	59.0	26.0	31.0	12.0	15.0	3.0
中3男子 (n=100)	78.0	35.0	26.0	30.0	5.0	7.0	1.0
小6男子 (n=100)	68.0	44.0	26.0	22.0	17.0	11.0	4.0
高3女子 (n=100)	79.0	52.0	26.0	31.0	9.0	13.0	2.0
中3女子 (n=100)	78.0	37.0	37.0	31.0	7.0	3.0	1.0
小6女子 (n=100)	75.0	35.0	35.0	26.0	15.0	9.0	3.0

Q3. 遺伝子組換え食品は安全だと思いますか？



遺伝子組換え食品を、安全と認識しているのは約3割にとどまっている。「安全とは思わない」が成年で46.3%、未成年で48.3%、また、「わからない」が成年で25.0%、未成年で25.3%というように、消費者は、遺伝子組換え食品の安全性について、判断できない、というのが実態といえよう。成年の男女別では、女性において「安全とは思わない」+「わからない」が75.0%を占め、男性よりもその比率が高い。未成年では、年齢が低いほど「安全とは思わない」+「わからない」の比率が高い。

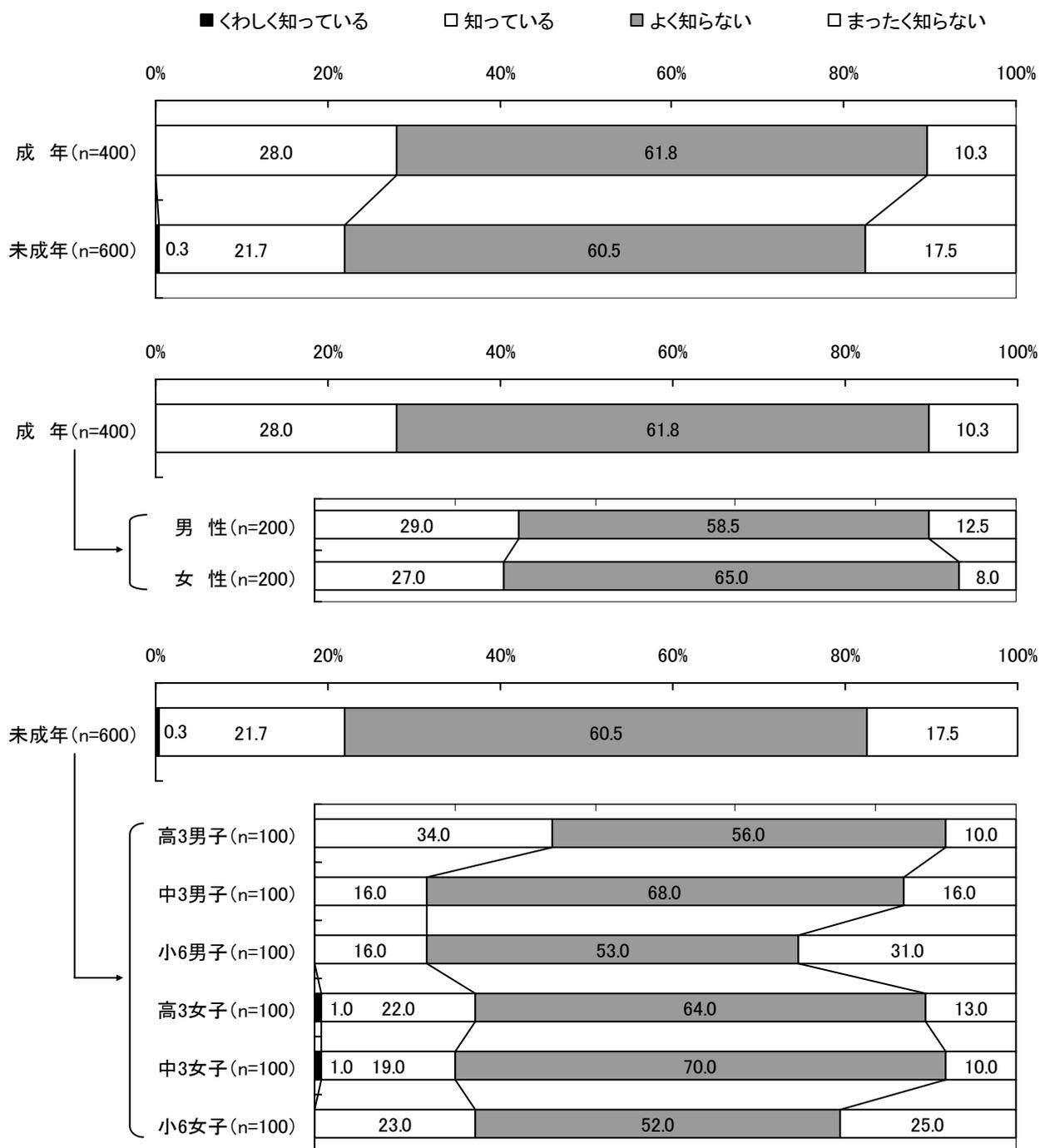
【遺伝子組換え食品は安全だと思いますか？】

	安全だと思う	だいたい安全 だと思う	安全だと思わない	わからない
成年 (n=400)	1.3	27.5	46.3	25.0
未成年 (n=600)	2.8	23.5	48.3	25.3

	安全だと思う	だいたい安全 だと思う	安全だと思わない	わからない
成年 (n=400)	1.3	27.5	46.3	25.0
男性 (n=200)	1.0	31.5	44.5	23.0
女性 (n=200)	1.5	23.5	48.0	27.0

	安全だと思う	だいたい安全 だと思う	安全だと思わない	わからない
未成年 (n=600)	2.8	23.5	48.3	25.3
高3男子 (n=100)	7.0	29.0	45.0	19.0
中3男子 (n=100)	2.0	26.0	50.0	22.0
小6男子 (n=100)	4.0	17.0	51.0	28.0
高3女子 (n=100)	1.0	27.0	53.0	19.0
中3女子 (n=100)	0.0	24.0	45.0	31.0
小6女子 (n=100)	3.0	18.0	46.0	33.0

Q4. 遺伝子組換え食品の安全性について、国が審査し、安全性が確認されたものだけが流通・販売されていることを知っていますか？



遺伝子組換え食品の安全性について、国が審査し、安全性が確認されたものだけが流通・販売されていることを認知しているのは、成年 28.0%、未成年で 23.0%にとどまり、8 割近くは認知されていないといえる。

成年の男女別では、女性より男性の認知率が高い。

未成年では、高 3 男子では 34.0%と、成年男性を上回る認知率となっているが、他の学年においては、認知率は 2 割程度にとどまり、8 割前後は「よく知らない」+「まったく知らない」としている。

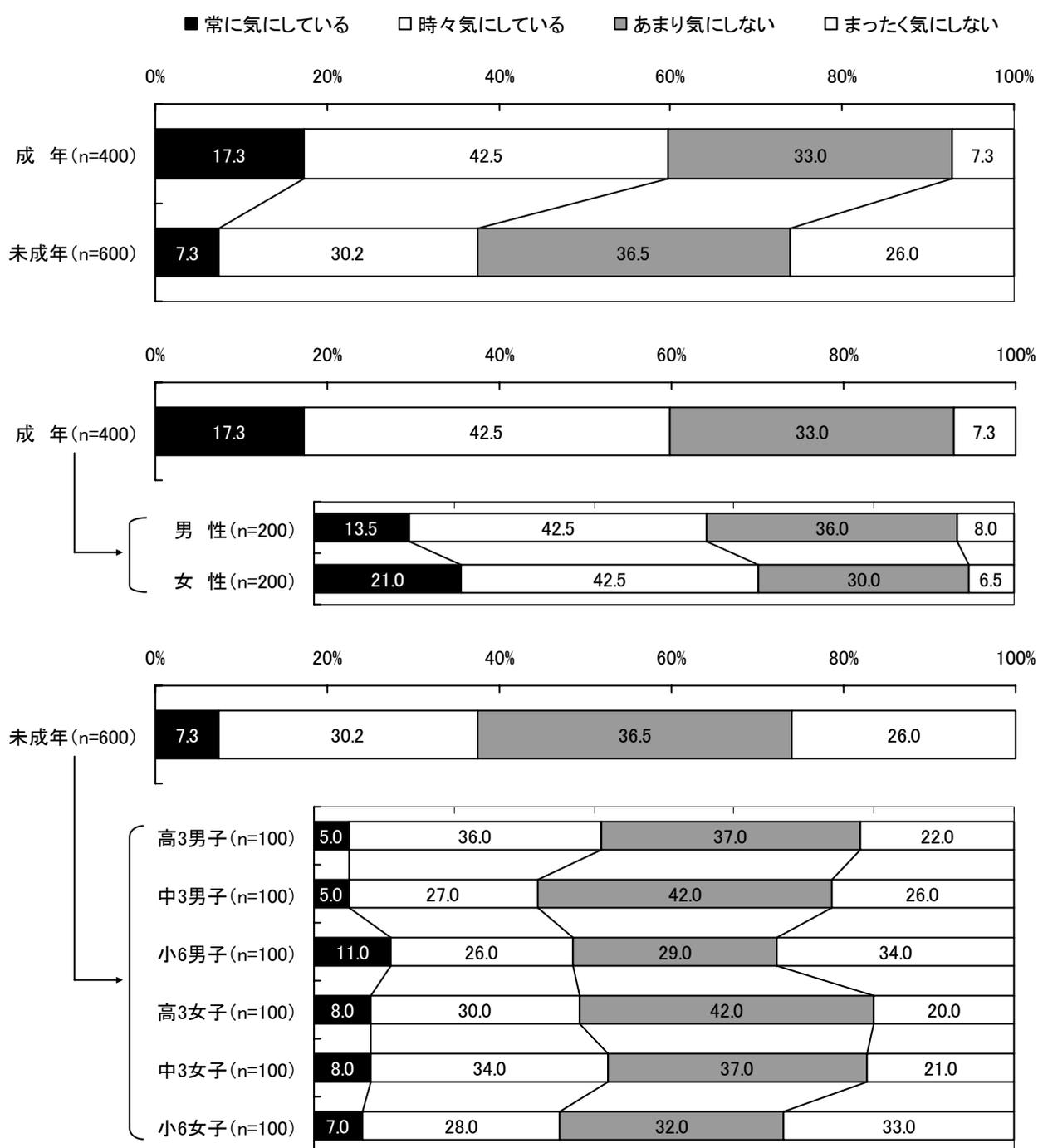
【遺伝子組換え食品の安全性について、国が審査し、安全性が確認されたものだけが流通・販売されていることを知っていますか？】

	くわしく知っている	知っている	よく知らない	まったく知らない
成年 (n=400)	0.0	28.0	61.8	10.3
未成年 (n=600)	0.3	21.7	60.5	17.5

	くわしく知っている	知っている	よく知らない	まったく知らない
成年 (n=400)	0.0	28.0	61.8	10.3
男性 (n=200)	0.0	29.0	58.5	12.5
女性 (n=200)	0.0	27.0	65.0	8.0

	くわしく知っている	知っている	よく知らない	まったく知らない
未成年 (n=600)	0.3	21.7	60.5	17.5
高3男子 (n=100)	0.0	34.0	56.0	10.0
中3男子 (n=100)	0.0	16.0	68.0	16.0
小6男子 (n=100)	0.0	16.0	53.0	31.0
高3女子 (n=100)	1.0	22.0	64.0	13.0
中3女子 (n=100)	1.0	19.0	70.0	10.0
小6女子 (n=100)	0.0	23.0	52.0	25.0

Q5. 食品を購入する時や食べる時、遺伝子組換え食品かどうか、気にしますか？



食品を購入するときや食べる時、遺伝子組換え食品かどうかを気にするとの回答は、成年 59.8%、未成年で 37.5%と、成年の方が強く意識していることがわかる。一方、「まったく気にしない」との回答が成年 7.3%に対し、未成年では 26.0%と高い。

さらに、成年の男女別では、女性においては「常に気にしている」が 21.0%と高い。「時々気にしている」をあわせると 63.5%が気にしていることがわかる。

未成年では、「まったく気にしない」とする比率が、小6男子、小6女子で高く、ともに、7割近くは気にしないということになる。

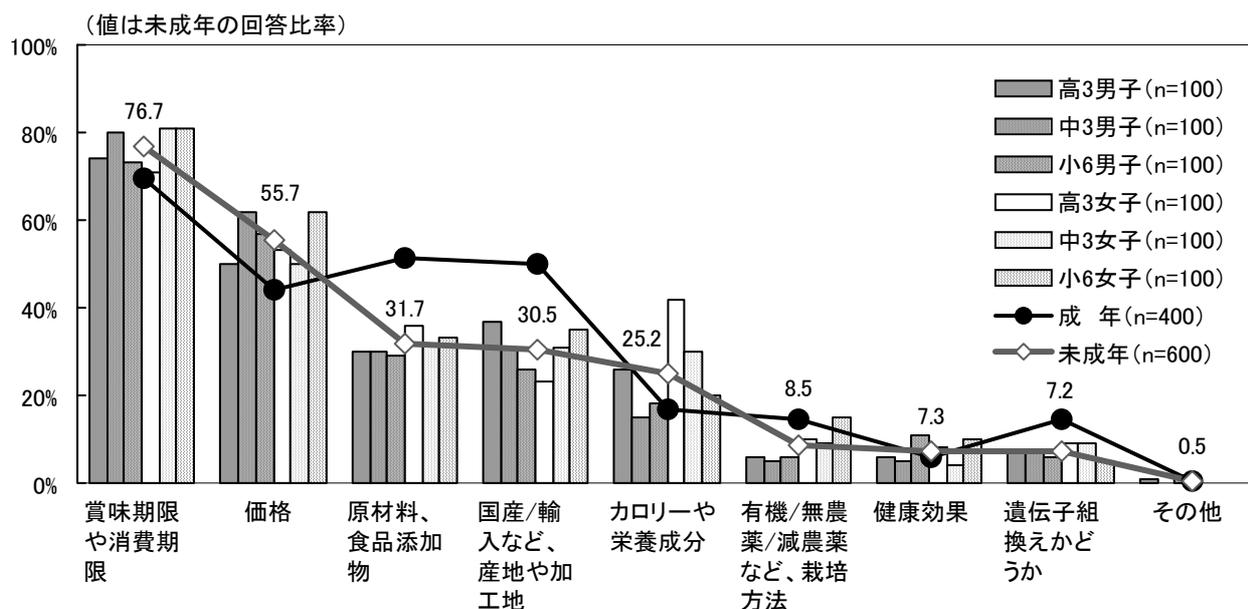
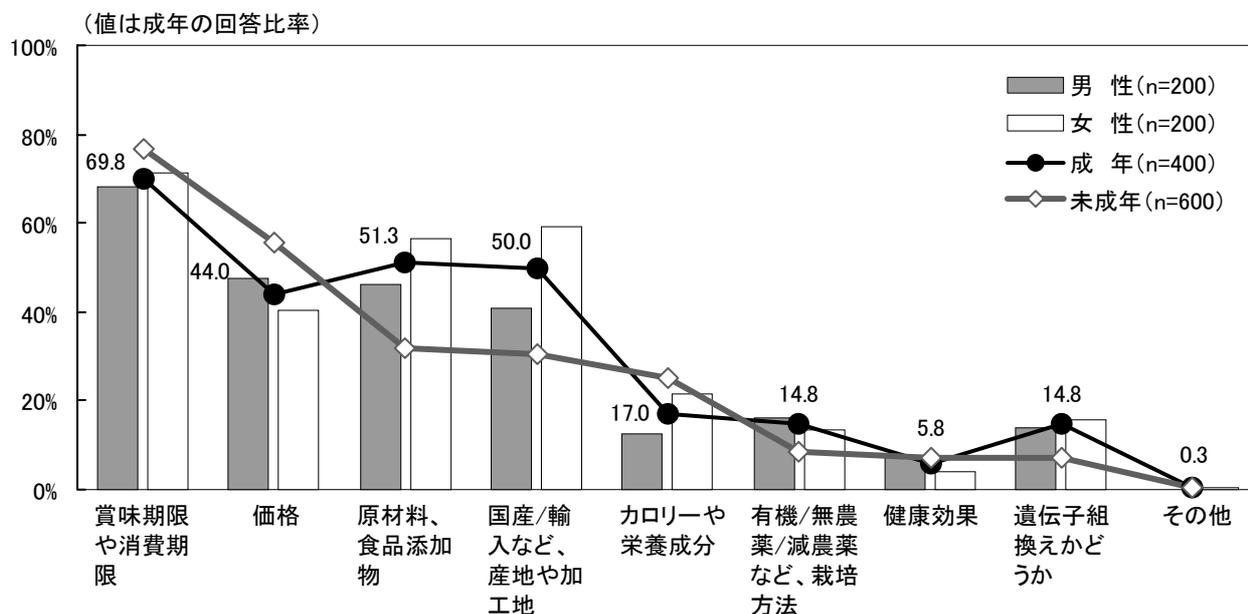
【食品を購入する時や食べる時、遺伝子組換え食品かどうか、気にしますか？】

	常に気にしている	時々気にしている	あまり気にしない	まったく気にしない
成年 (n=400)	17.3	42.5	33.0	7.3
未成年 (n=600)	7.3	30.2	36.5	26.0

	常に気にしている	時々気にしている	あまり気にしない	まったく気にしない
成年 (n=400)	17.3	42.5	33.0	7.3
男性 (n=200)	13.5	42.5	36.0	8.0
女性 (n=200)	21.0	42.5	30.0	6.5

	常に気にしている	時々気にしている	あまり気にしない	まったく気にしない
未成年 (n=600)	7.3	30.2	36.5	26.0
高3男子 (n=100)	5.0	36.0	37.0	22.0
中3男子 (n=100)	5.0	27.0	42.0	26.0
小6男子 (n=100)	11.0	26.0	29.0	34.0
高3女子 (n=100)	8.0	30.0	42.0	20.0
中3女子 (n=100)	8.0	34.0	37.0	21.0
小6女子 (n=100)	7.0	28.0	32.0	33.0

Q6. 食品の表示について、主にどんな点に注目しますか？



食品の表示の注目内容については、成年では、「賞味期限や消費期限」69.8%、「原材料、食品添加物」51.3%、「国産/輸入など、産地や加工地」50.0%が上位に挙げられている。また、男女別では、「原材料、食品添加物」「国産/輸入など、産地や加工地」「カロリーや栄養成分」等の項目で、女性において回答比率が高くなっている。

一方、未成年では1位の項目は「賞味期限や消費期限」76.7%で、成年と同様であるが、2位は「価格」55.7%となっており、成年の傾向とは異なっている。この2項目については半数が注目しているが、3位以下は3割程度以下の注目度となっている。高3女子においては、「カロリーや栄養成分」への注目度が高い。

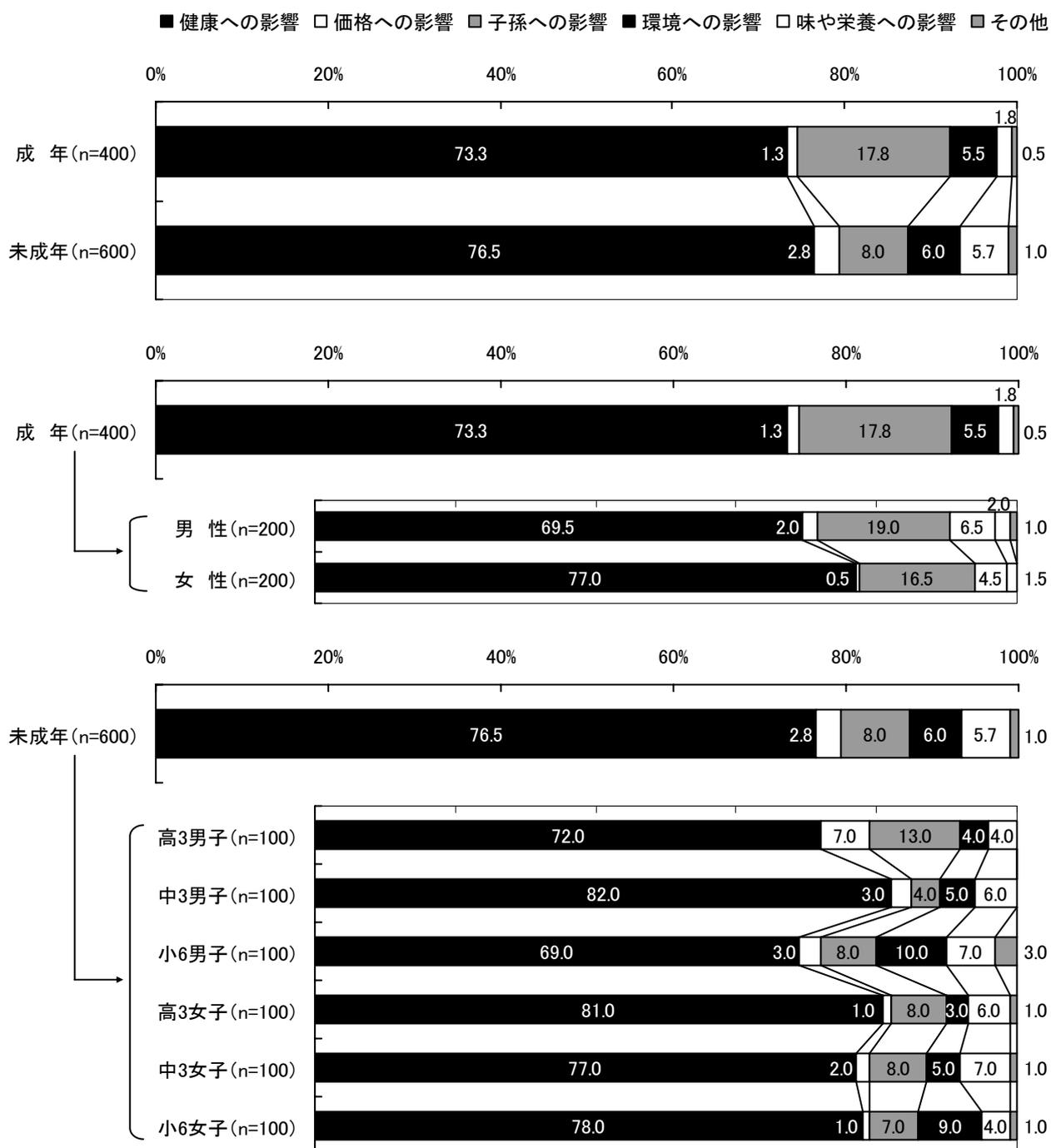
【食品の表示について、主にどんな点に注目しますか？】

	賞味期限 や消費 期限	価格	原材料、 食品 添加物	国産/輸 入など、 産地や 加工地	カロリー や栄養 成分	有機/無 農薬/減 農薬な ど、栽培 方法	健康 効果	遺伝子 組換えか どうか	その他
成 年 (n=400)	69.8	44.0	51.3	50.0	17.0	14.8	5.8	14.8	0.3
未成年 (n=600)	76.7	55.7	31.7	30.5	25.2	8.5	7.3	7.2	0.5

	賞味期限 や消費 期限	価格	原材料、 食品 添加物	国産/輸 入など、 産地や 加工地	カロリー や栄養 成分	有機/無 農薬/減 農薬な ど、栽培 方法	健康 効果	遺伝子 組換えか どうか	その他
成 年 (n=400)	69.8	44.0	51.3	50.0	17.0	14.8	5.8	14.8	0.3
男 性 (n=200)	68.0	47.5	46.0	41.0	12.5	16.0	7.5	14.0	0.0
女 性 (n=200)	71.5	40.5	56.5	59.0	21.5	13.5	4.0	15.5	0.5

	賞味期限 や消費 期限	価格	原材料、 食品 添加物	国産/輸 入など、 産地や 加工地	カロリー や栄養 成分	有機/無 農薬/減 農薬な ど、栽培 方法	健康 効果	遺伝子 組換えか どうか	その他
未成年 (n=600)	76.7	55.7	31.7	30.5	25.2	8.5	7.3	7.2	0.5
高 3 男子 (n=100)	74.0	50.0	30.0	37.0	26.0	6.0	6.0	7.0	1.0
中 3 男子 (n=100)	80.0	62.0	30.0	31.0	15.0	5.0	5.0	7.0	0.0
小 6 男子 (n=100)	73.0	57.0	29.0	26.0	18.0	6.0	11.0	6.0	2.0
高 3 女子 (n=100)	71.0	53.0	36.0	23.0	42.0	10.0	8.0	9.0	0.0
中 3 女子 (n=100)	81.0	50.0	32.0	31.0	30.0	9.0	4.0	9.0	0.0
小 6 女子 (n=100)	81.0	62.0	33.0	35.0	20.0	15.0	10.0	5.0	0.0

Q7. 遺伝子組換え食品についてあなたがいちばん知りたい情報は何ですか？



成年年代を問わず、遺伝子組換え食品について最も知りたい情報は「健康への影響」である。成年 73.3%、未成年 76.5%と高い比率と鳴っている。成年では「子孫への影響」17.8%で、未成年の8.0%を上回っている。

成年の男女別では、女性において「健康への影響」は77.0%で男性を上回っている。

未成年では、「健康への影響」を気にする比率は、中3男子82.0%、高3女子81.0%が高くなっている。

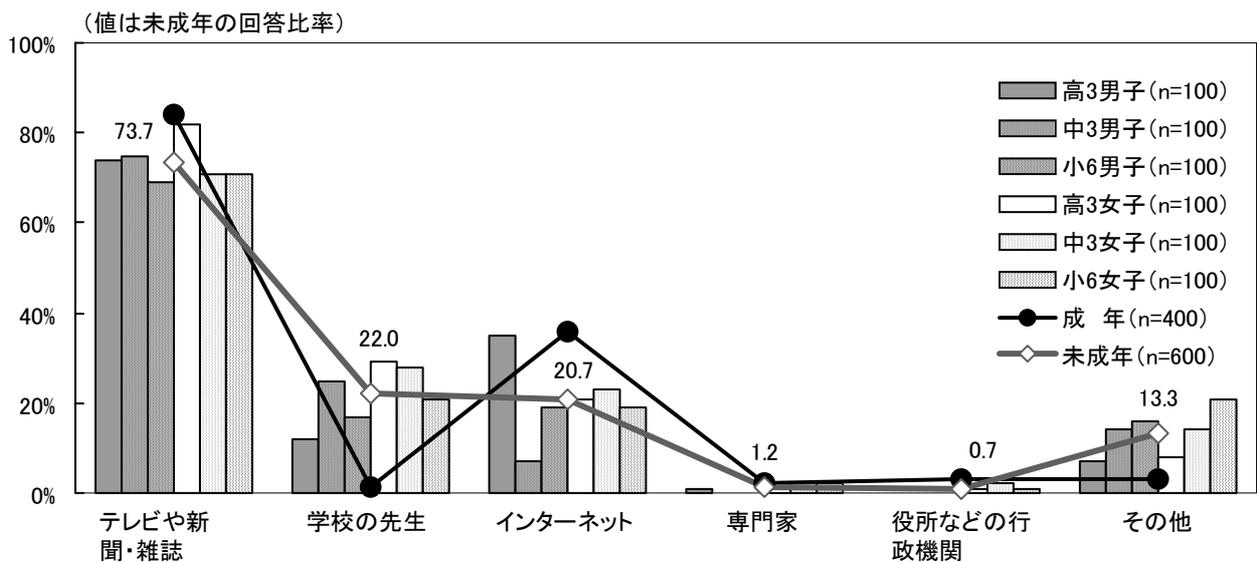
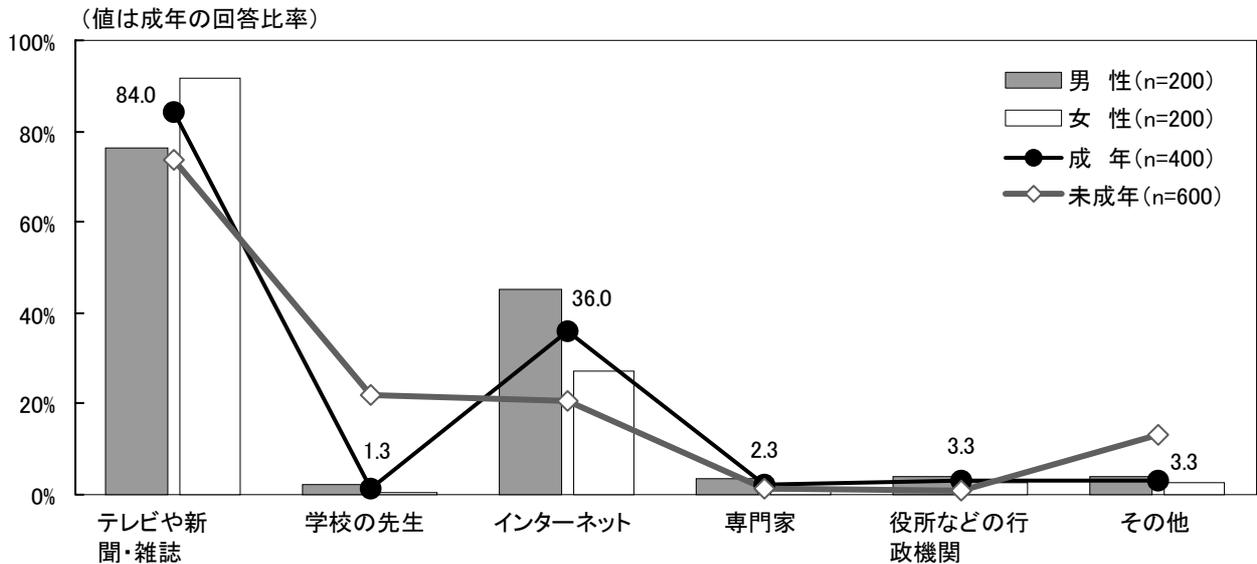
【遺伝子組換え食品についてあなたがいちばん知りたい情報は何ですか？】

	健康への影響	価格への影響	子孫への影響	環境への影響	味や栄養への影響	その他
成年 (n=400)	73.3	1.3	17.8	5.5	1.8	0.5
未成年 (n=600)	76.5	2.8	8.0	6.0	5.7	1.0

	健康への影響	価格への影響	子孫への影響	環境への影響	味や栄養への影響	その他
成年 (n=400)	73.3	1.3	17.8	5.5	1.8	0.5
男性 (n=200)	69.5	2.0	19.0	6.5	2.0	1.0
女性 (n=200)	77.0	0.5	16.5	4.5	1.5	0.0

	健康への影響	価格への影響	子孫への影響	環境への影響	味や栄養への影響	その他
未成年 (n=600)	76.5	2.8	8.0	6.0	5.7	1.0
高3男子 (n=100)	72.0	7.0	13.0	4.0	4.0	0.0
中3男子 (n=100)	82.0	3.0	4.0	5.0	6.0	0.0
小6男子 (n=100)	69.0	3.0	8.0	10.0	7.0	3.0
高3女子 (n=100)	81.0	1.0	8.0	3.0	6.0	1.0
中3女子 (n=100)	77.0	2.0	8.0	5.0	7.0	1.0
小6女子 (n=100)	78.0	1.0	7.0	9.0	4.0	1.0

Q8. 現在、遺伝子組換え食品の情報は何かから得ていますか？



遺伝子組換え食品の情報入手は、「テレビや新聞・雑誌」といったマスコミからの情報入手が圧倒的に多く、成年 84.0%、未成年 73.7%に達する。成年、未成年を問わず、「専門家」や「役所などの行政機関」は極めて少ない数字となった。

成年においては、「テレビや新聞・雑誌」は特に女性に高く、2位の「インターネット」36.0%は男性で多くなっている。

一方、未成年は、2位以下は「学校の先生」が 22.0%、「インターネット」20.7%と続いている。インターネットは、知識の認知度が高かった高3男子において高くなっている。なお、その他として、「母親・家族・親」が複数挙げられた。

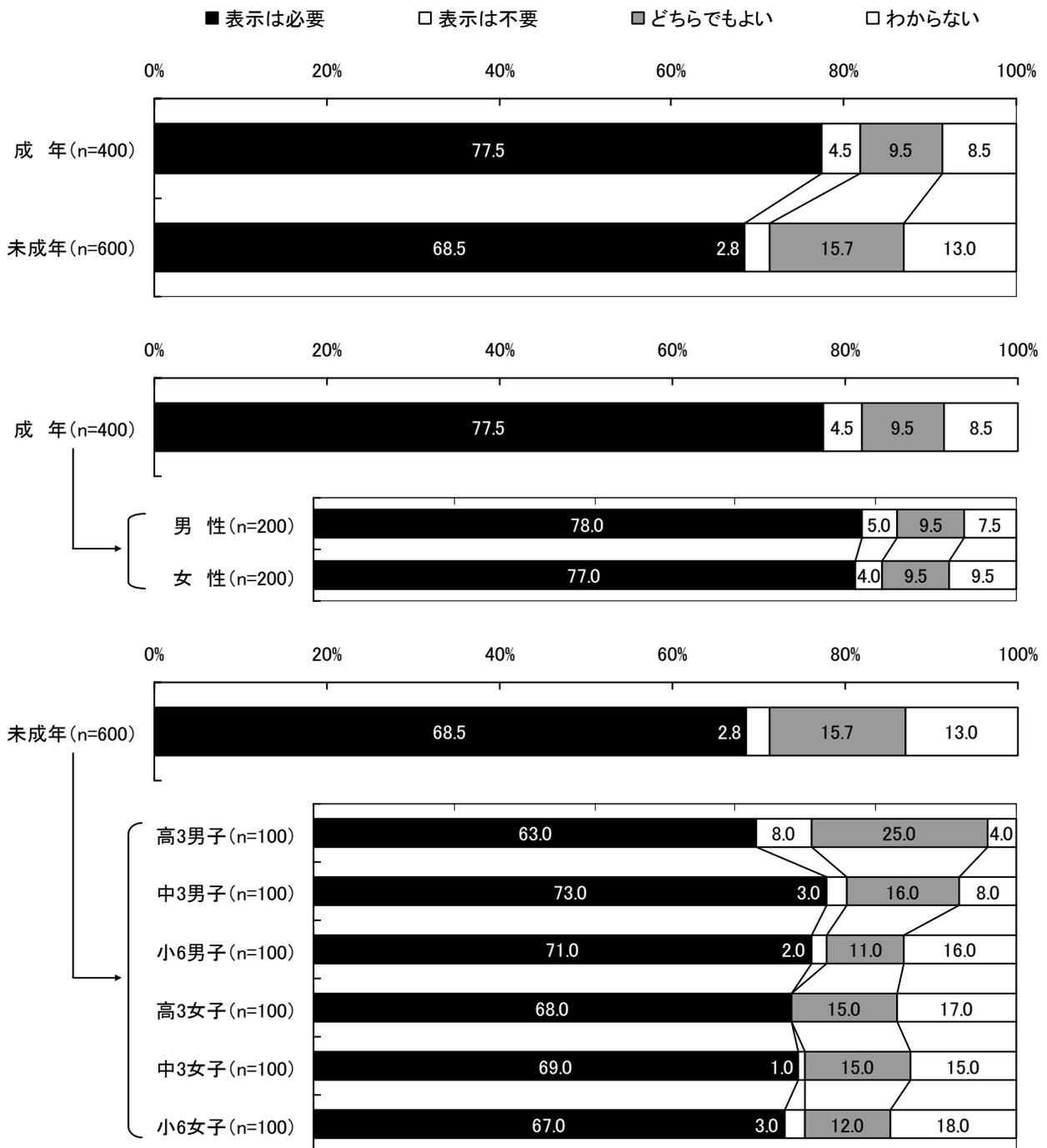
【現在、遺伝子組換え食品の情報は何かから得ていますか？】

	テレビや 新聞・雑誌	学校の先生	インター ネット	専門家	役所などの 行政機関	その他
成 年 (n=400)	84.0	1.3	36.0	2.3	3.3	3.3
未成年 (n=600)	73.7	22.0	20.7	1.2	0.7	13.3

	テレビや 新聞・雑誌	学校の先生	インター ネット	専門家	役所などの 行政機関	その他
成 年 (n=400)	84.0	1.3	36.0	2.3	3.3	3.3
男 性 (n=200)	76.5	2.0	45.0	3.5	4.0	4.0
女 性 (n=200)	91.5	0.5	27.0	1.0	2.5	2.5

	テレビや 新聞・雑誌	学校の先生	インター ネット	専門家	役所などの 行政機関	その他
未成年 (n=600)	73.7	22.0	20.7	1.2	0.7	13.3
高 3 男子 (n=100)	74.0	12.0	35.0	1.0	0.0	7.0
中 3 男子 (n=100)	75.0	25.0	7.0	0.0	0.0	14.0
小 6 男子 (n=100)	69.0	17.0	19.0	0.0	0.0	16.0
高 3 女子 (n=100)	82.0	29.0	21.0	2.0	1.0	8.0
中 3 女子 (n=100)	71.0	28.0	23.0	2.0	2.0	14.0
小 6 女子 (n=100)	71.0	21.0	19.0	2.0	1.0	21.0

Q9. 遺伝子組換えの大豆を原料としてつくった醤油や油は、製品から組換えた遺伝子を検出できないため、現在、「遺伝子組換えの大豆を使用」という表示は必要ありません。あなたは表示を行うべきだと思いますか？



遺伝子組換えの大豆を使用の「表示は必要」との回答は、成年 77.5%、未成年 68.5%と、大半は、表示は必要と考えている。

成年の男女別では特に差異は見られない。未成年においては、表示の必要性について「わからない」との回答が年齢の低い層で多くなっている。

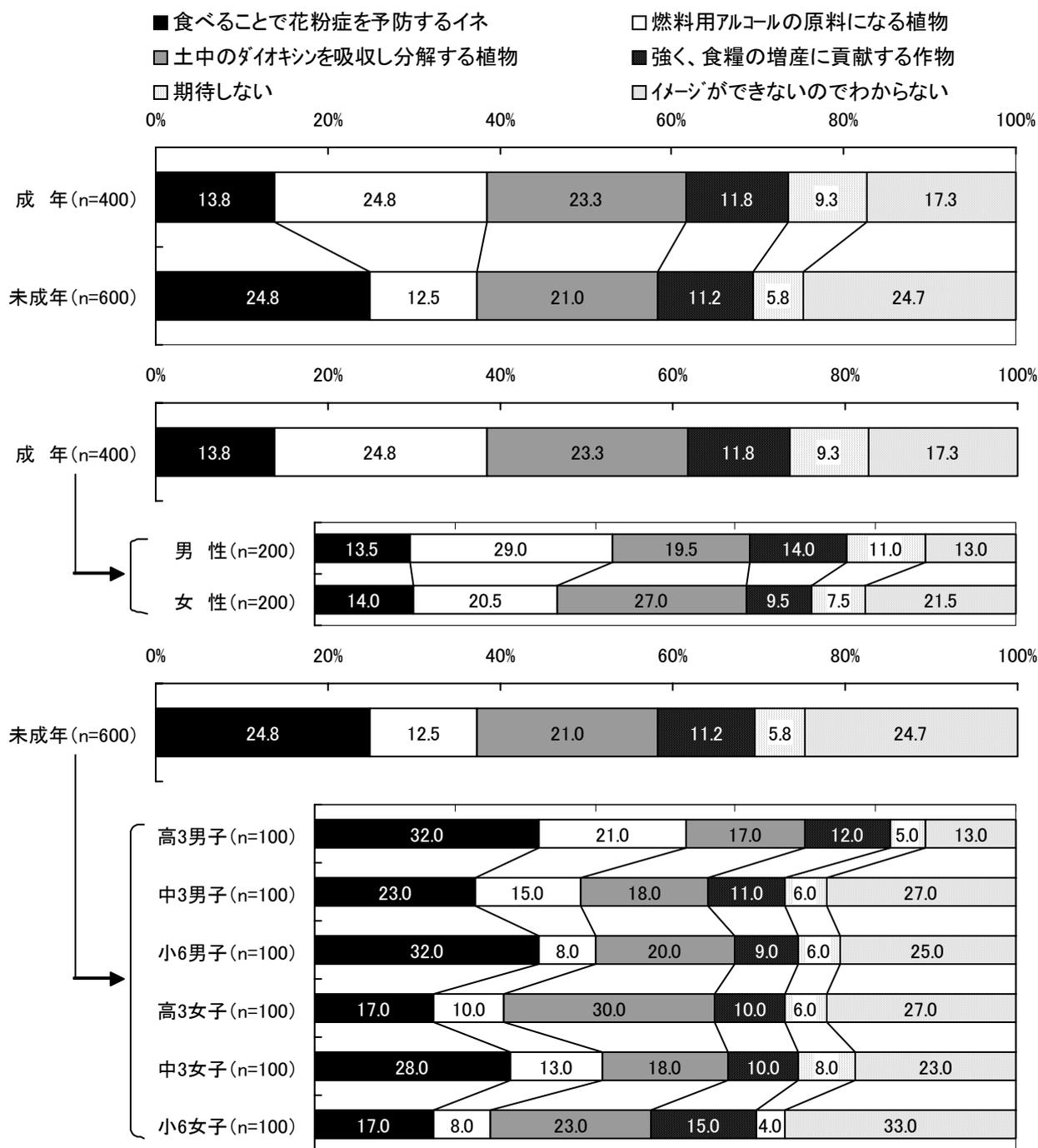
【遺伝子組換えの大豆を原料としてつくった醤油や油は、製品から組換えた遺伝子を検出できないため、現在、「遺伝子組換えの大豆を使用」という表示は必要ありません。あなたは表示を行うべきだと思いますか？】

	表示は必要	表示は不要	どちらでもよい	わからない
成年 (n=400)	77.5	4.5	9.5	8.5
未成年 (n=600)	68.5	2.8	15.7	13.0

	表示は必要	表示は不要	どちらでもよい	わからない
成年 (n=400)	77.5	4.5	9.5	8.5
男性 (n=200)	78.0	5.0	9.5	7.5
女性 (n=200)	77.0	4.0	9.5	9.5

	表示は必要	表示は不要	どちらでもよい	わからない
未成年 (n=600)	68.5	2.8	15.7	13.0
高3男子 (n=100)	63.0	8.0	25.0	4.0
中3男子 (n=100)	73.0	3.0	16.0	8.0
小6男子 (n=100)	71.0	2.0	11.0	16.0
高3女子 (n=100)	68.0	0.0	15.0	17.0
中3女子 (n=100)	69.0	1.0	15.0	15.0
小6女子 (n=100)	67.0	3.0	12.0	18.0

Q10. 現在研究されている遺伝子組換え技術の中で、どの研究に期待しますか？



現在研究されている遺伝子組換え技術についての期待は、回答が分散している。

成年では、「燃料用のアルコールの原料になる植物」24.8%、「土中のダイオキシンを吸収し分解する植物」23.3%、「食べることで花粉症を予防するイネ」13.8%の順となっている。男女別では、女性は「土中のダイオキシン～」が27.0%と最も多い。

未成年全体では、「食べることで花粉症を予防するイネ」が24.8%が最も高く、「花粉症」に反応したものと考えられる。次に「土中のダイオキシンを吸収し分解する植物」21.0%、また、「イメージできないのでわからない」24.7%が2割を超えている。それぞれの層別にみると、遺伝子組換え食品についての知識の認知度が高かった高3男子以外は、「イメージできないのでわからない」の比率が最も高い。

【現在研究されている遺伝子組換え技術の中で、どの研究に期待しますか？】

	食べることで花粉症を予防するイネ	燃料用アルコールの原料になる植物	土中のダイオキシンを吸収し分解する植物	強く、食糧の増産に貢献する作物	期待しない	イメージができないのでわからない
成年 (n=400)	13.8	24.8	23.3	11.8	9.3	17.3
未成年 (n=600)	24.8	12.5	21.0	11.2	5.8	24.7

	食べることで花粉症を予防するイネ	燃料用アルコールの原料になる植物	土中のダイオキシンを吸収し分解する植物	強く、食糧の増産に貢献する作物	期待しない	イメージができないのでわからない
成年 (n=400)	13.8	24.8	23.3	11.8	9.3	17.3
男性 (n=200)	13.5	29.0	19.5	14.0	11.0	13.0
女性 (n=200)	14.0	20.5	27.0	9.5	7.5	21.5

	食べることで花粉症を予防するイネ	燃料用アルコールの原料になる植物	土中のダイオキシンを吸収し分解する植物	強く、食糧の増産に貢献する作物	期待しない	イメージができないのでわからない
未成年 (n=600)	24.8	12.5	21.0	11.2	5.8	24.7
高3男子 (n=100)	32.0	21.0	17.0	12.0	5.0	13.0
中3男子 (n=100)	23.0	15.0	18.0	11.0	6.0	27.0
小6男子 (n=100)	32.0	8.0	20.0	9.0	6.0	25.0
高3女子 (n=100)	17.0	10.0	30.0	10.0	6.0	27.0
中3女子 (n=100)	28.0	13.0	18.0	10.0	8.0	23.0
小6女子 (n=100)	17.0	8.0	23.0	15.0	4.0	33.0